

産科医療提供体制検討ワーキンググループ

(平成 26 年度)

産科医療提供体制の確保について

広島県地域保健対策協議会 産科医療提供体制検討ワーキンググループ

委員長 工藤 美樹

I. はじめに

広島県の産科医療体制において、少子化に伴う出産数の減少や医師の高齢化などにより、分娩取扱施設は減少している。

また、地域における産科医師の偏在も大きく、必要な産科医療を安定的に供給できる体制の確保が困難な状況となっている。

特に、産科医師が少ない地域においては、産科医療提供体制を確保するため、個々の医師が過酷な勤務を強いられている場合があると考えられる。

産科医師が急速に減少し、医師の負担が増大している地域を鑑みず、従来どおりに産科医師を配置すれば、地域における産科医師の負担の格差はさらに大きくなる。

少子化や医師の高齢化、産科医師の偏在などに係る産科医療を取り巻く課題の解決をめざして、広島県地域保健対策協議会に産科医療提供体制検討ワーキンググループを設置し、協議・検討を行った。

II. 調査検討内容

1 産科医療提供体制の現状の把握・分析

平成 26 年 6 月に広島県内の産科取り扱い施設を対象に産科医療提供体制に関するアンケート調査を実施し、現状の把握・分析を行った。

2 広島県および各地域の産科医療の現状および今後の対策などについて検討

各圏域において、産科医療に従事している医師などの意見および今回のアンケート調査結果などを基に広島県の産科医療の現状および今後の対策などについて検討した。

III. 産科医療提供体制に関するアンケート調査結果の概要

1. アンケート調査実施状況 (表 1)

表 1 アンケート調査実施状況

調査対象	調査対象数	回答数	回収率 (%)
産科・産婦人科標榜の医療機関の長	131	118	90.1
助産所の開設者の長	7	7	100.0

2. 調査結果

1) 県内の産科医療資源の状況

表 2 産科医療資源 (平成 26 年)

	回答施設数	妊婦健診実施施設数 (回答施設中)	分娩取扱施設数 (分娩取扱施設中)
病院	37	34 (91.9%)	26 (92.9%)
診療所	78	69 (88.5%)	26 (86.7%)
不明等	3	1	1

	回答施設数	妊婦健診実施施設数 (回答施設中)	分娩取扱施設数 (回答施設中)
助産所	7	6 (85.7%)	5 (71.4%)

回答のあった産科・産婦人科を標榜する医療機関数 (閉院, 休診は除く) は, 病院 37 ヵ所, 診療所 78 ヵ所であった。

回答のあった開業している助産所 (閉所, 休止は除く) は, 7 ヵ所であった。

・妊婦健診を行っているのは, 病院 34 ヵ所 (91.9%), 診療所 69 ヵ所 (88.5%), 助産所 6 ヵ所 (85.7%) であった。

・分娩を取り扱っている医療施設 59 ヵ所 (平成 25 年 4 月 1 日現在) のうち病院の回答は 28 ヵ所中 27 ヵ所 (96.4%), 診療所の回答は 31 ヵ所中

26カ所（88.5%）であった。

- ・回答のあった助産所7カ所のうち5カ所が分娩を取り扱っている。

2) 県内の分娩の状況

表3 県内の分娩件数・割合（平成25年）

二次保健医療圏	分娩件数			分娩件数割合 (%)	
	計	病院	診療所	病院	診療所
広島県	24,307	12,857	11,450	52.9	47.1
広島	11,776	6,198	5,578	52.6	47.4
広島西	1,522	572	950	37.6	62.4
呉	1,888	1,449	439	76.7	23.3
広島中央	1,579	413	1,166	26.2	73.8
尾三	2,274	1,025	1,249	45.1	54.9
福山・府中	4,552	2,484	2,068	54.6	45.4
備北	716	716	0	100.0	0.0

平成25年の分娩件数は、病院12,857件、診療所11,450件、総数24,307件であった。

- ・助産所の分娩件数は43件であった。
- ・病院と診療所の分娩の割合は、病院の割合が大きかった。なお、広島圏域、備北圏域、呉圏域、福山・府中圏域では病院の分娩の割合が大きく、広島西圏域、広島中央圏域、尾三圏域では診療所の分娩の割合が大きかった。

表4 産婦人科医師数・医師1人あたりの分娩件数（平成25年）

二次保健医療圏	産婦人科医師数 (常勤医・レジデント)			医師1人あたりの 分娩件数		
	計	病院	診療所	全体	病院	診療所
広島県	159	120	39	153	107	294
広島	87	70	17	135	89	328
広島西	8	6	2	190	95	475
呉	15	13	2	126	111	220
広島中央	8	3	5	197	138	233
尾三	15	9	6	152	114	208
福山・府中	22	15	7	207	166	295
備北	4	4	0	179	179	0

分娩を行う病院・診療所のレジデントを含む常勤医の数は、病院120名、診療所39名であった。非常勤医42.7名で常勤換算すると24.27名となっている。

医師1人あたりの分娩件数は、病院107件、診療所294件で県平均は157件であった。

- ・今後の分娩の取り扱い見込みについては、「継続

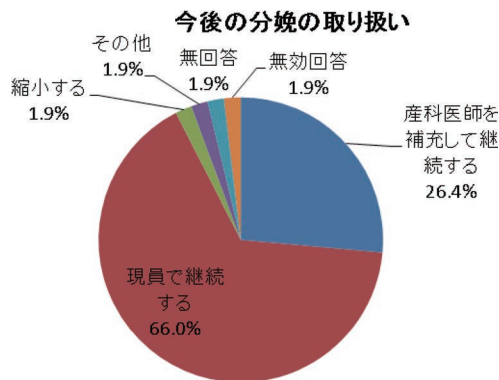


図1 今後の分娩の取り扱い

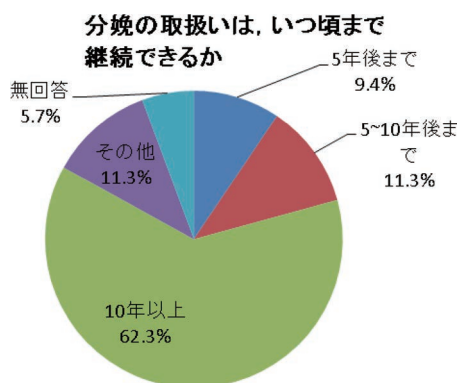


図2 今後の分娩の取扱いは、いつ頃まで継続できるか

する意向がある」施設が49カ所（92.4%）であった。

- ・「分娩の取り扱いを縮小する」施設は1カ所（1.9%）であった。
- ・分娩の取り扱い見込み期間については、「5年後まで」と考えている施設が6カ所（9.4%）であった。
- ・医師数を変えることについては、「増やすことが可能」と回答した施設が27カ所（50.9%）であり、「減らすことが可能」と回答した施設は0カ所であった。

3) 産科・産婦人科医師の勤務状況

分娩を行っている施設の平日の産科当直の状況は、「常勤医によるオンコール制」が67.9%、ついで「常勤医が当直」が39.6%であり、常勤医によるオンコール体制が一番多い勤務体制であった。土日祝日についてもほぼ同様である。

当直などの翌日の診療状況は、「通常どおりのフルタイム勤務」が88.7%であり、「半日勤務」が1.9%、「休日」はなかった。当直などの回数および翌日の勤

務体制から、未だ多くの医師が過酷な勤務状況であることがうかがえる。

手当などについて、全くの「手当なし」は28.3%であり、多くの医療施設で時間外・当直などの手当が支給されている。

4) 助産師および助産師外来の現況について

分娩取り扱い施設の助産師数は病院 480 人、診療所 135 人であった。助産所は 8 人であった。

病院では助産師数「1～10 人」の 9 ヶ所 (36.0%) と「21 人以上」の 9 ヶ所 (36.0%) が最も多く、次いで「11～20 人」が 6 ヶ所 (24.0%) であった。「助産師不在」の施設はなかった。

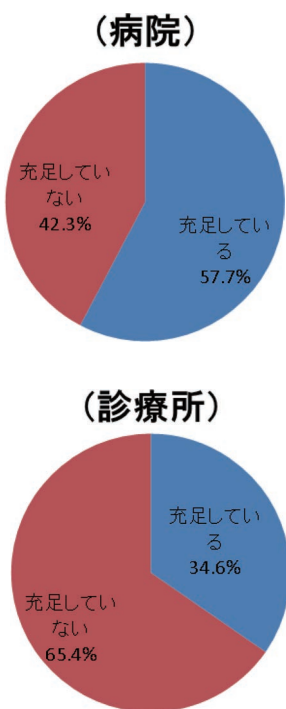


図3 助産師の充足度

病院の助産師の充足度については、「充足している」が57.7%、「充足していない」は42.3%であり、充足している施設が多かった。

対して、診療所の助産師の充足度については、「充足している」が34.6%、「充足していない」は65.4%であり、充足していない施設が多かった。

「正常分娩を助産師のみで取り扱った事例がある」のは1ヶ所 (1.9%)、「ない」のは52ヶ所 (98.1%) であった。

助産師外来および院内助産所については、病院では「助産師外来を行っている」施設が10ヶ所 (38.5%)

であった。「今後、検討したい」施設は7ヶ所 (26.9%) であった。

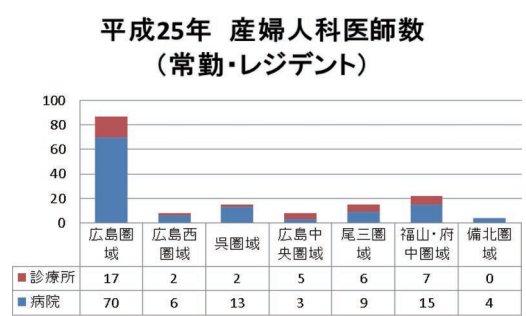
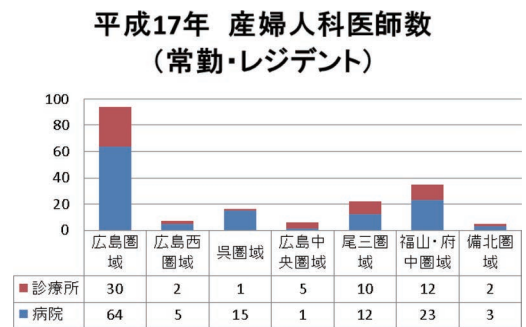
診療所では「助産師外来、院内助産所を行っている」施設が1ヶ所 (3.8%) あり、「今後、検討したい」施設は5ヶ所 (19.2%) であった。

助産師外来および院内助産所を行うにあたっての課題で最も多かったのは、「助産師の再教育」(58.5%) で、次に「助産師の数」(54.7%)、次に「医療事故、医療訴訟」(45.3%) であった。

5) 産科医療提供体制の変化

表5 平成17年、25年産婦人科医師数 (常勤・レジデント)

※平成17年の数値は、保健医療基本問題検討委員会 産科医療提供体制検討部会平成18年度報告書による。以下同様。

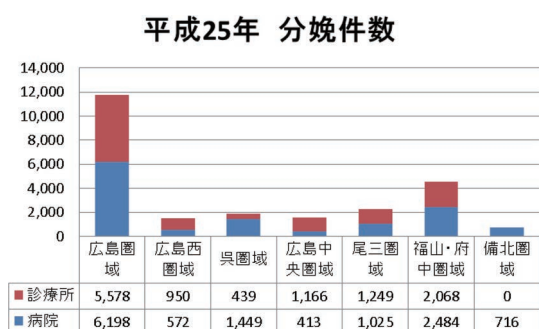
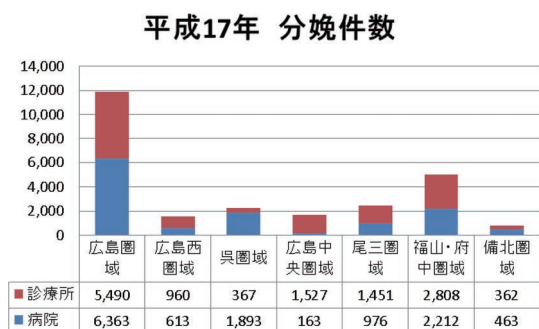


平成17年と平成25年の病院・診療所の産婦人科医師数の合計を比較すると、広島西圏域と広島中央圏域以外の圏域の医師数は減少している。特に広島圏域、尾三圏域、福山・府中圏域の医師数は大きく減少している。

平成17年と平成25年の診療所の産婦人科医師数を比較すると、呉圏域は増加しており、広島西圏域、広島中央圏域は同数であった。広島圏域、尾三圏域、福山・府中圏域は約半数まで減少し、備北圏域の産婦人科医師は0人となっている。また県内の診療所勤務医の合計では23人減少している。

平成17年と平成25年の病院の産婦人科医師数を

表6 平成17年, 25年分娩件数



比較すると、広島圏域、広島西圏域、広島中央圏域、備北圏域で増加している。呉圏域、尾三圏域、福山・府中圏域は減少しており、特に福山・府中圏域の減少は著しい。また県内の病院勤務医の全計は3人の減少となっている。

平成17年と平成25年の病院・診療所の分娩数の合計を比較すると、若干減少傾向にあるが、大きな差異は生じていない。

平成17年と平成25年の診療所の分娩数を比較すると、広島圏域と呉圏域で増加しているが、広島西圏域、広島中央圏域、尾三圏域、福山・府中圏域、備北圏域では減少している。特に広島中央圏域、福山・府中圏域、備北圏域の減少が大きい。

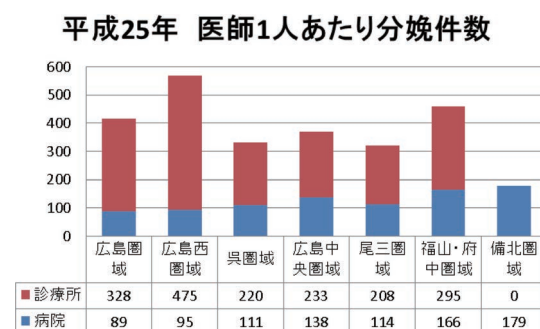
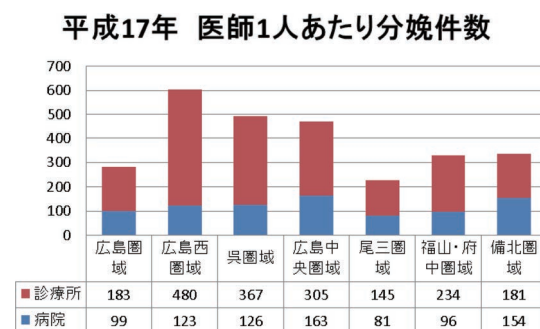
病院の分娩数は、広島中央圏域、尾三圏域、福山・府中圏域、備北圏域が増加し、広島圏域、広島西圏域、呉圏域では減少している。

広島中央圏域と備北圏域の病院の分娩数は大きく増加している。

平成17年と平成25年の病院・診療所の医師1人あたりの分娩件数の合計を比較すると、広島圏域、尾三圏域、福山・府中圏域、備北圏域では大きく増加しているが、広島西圏域、呉圏域、広島中央圏域では減少している。

診療所の医師1人あたりの分娩件数は、広島圏域、尾三圏域、福山・府中圏域で増加し、広島西圏域、

表7 平成17年, 25年医師1人あたり分娩件数



呉圏域、広島中央圏域では減少している。備北圏域は分娩を取り扱う産婦人科医師が0人になったため、医師1人当たりの分娩件数も0になっている。

病院の医師1人あたりの分娩件数は、尾三圏域、福山・府中圏域・備北圏域では増加し、広島圏域、広島西圏域、呉圏域、広島中央圏域では減少している。

Ⅳ. 産科医療提供体制の維持・確保するための対策

1 圏域ごとの現状と課題

2 今後の対策（方向性）

分娩を休止する産科施設が多く、分娩を取り巻く状況は、年々厳しくなりつつある。

効率的で持続可能な産科医療・周産期医療体制の構築を図るためには、次のような対策が必要と考える。

○地域の分娩の動向や産科医師の体制などについて状況把握に努め、状況に応じて、産科医師が不足している地域への医師の確保（派遣）を優先的に行う。

○産科医師は、当直やオンコール体制、当直後の通常勤務など、過酷な労働環境のなかで勤務しており、そのことが、分娩を扱う産科医師の減少の一因となっている。また、女性の産科医師

の割合が増えていることから、女性医師が継続的に勤務しやすい環境の整備が必要である。

今後、各分娩施設において、産科医師の勤務労働条件の改善に取り組むとともに、行政においては、分娩施設への助成を行う必要がある。

また、今後の産科医療体制を維持するには、若手の産科医師を増やす必要があり、そのためには、県内にできるだけ多くの臨床研修医を確保するとともに、臨床研修終了後に産科・産婦人科を選択するよう、医師・医学生への働きかけを行うなど、関係機関が連携して取り組むことが重要である。

- 日本産科婦人科学会医療改革委員会において、今後のより望ましい産婦人科医療体制を実現す

るための行動指針として、「産婦人科医療改革グランドデザイン 2015」が策定される予定である。この指針において、産科医師の勤務環境の改善するために、1施設当たりの産科医師を増やすことが有効である趣旨の提言がされる予定である。

分娩件数が大都市ほど多くない広島県において、当指針をそのまま適用することはできないと考えられるが、今後の方向性として、地域の実情に応じて、ハイリスク分娩に対応できる、周産期母子医療センターや地域の基幹病院への医師の確保（配置）を重点的に行うことも検討する必要がある。

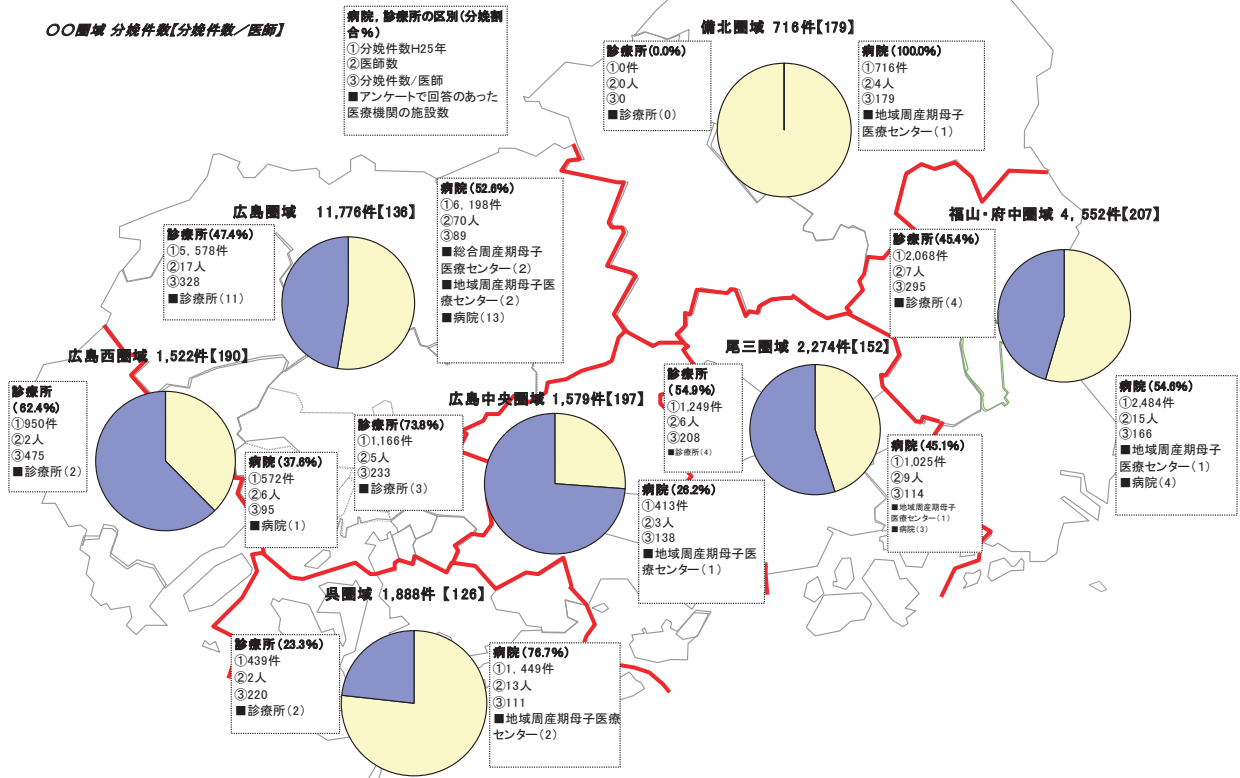
医療圏域	現状と課題
広島圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が多く、県内で最も分娩件数が多い。総合周産期母子医療センターが2施設、地域周産期母子医療センターが2施設あり、広島県の周産期医療の中心を担っている。 ・周産期母子医療センター以外の病院・診療所の分娩件数も多く、周産期母子医療センターとほかの病院・診療所の役割分担が機能している。
広島西圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩件数、医師一人あたりの分娩件数は減少傾向にある。分娩取扱施設が少なく、診療所が圏域の分娩の大半を担っている。 ・周産期母子医療センターはないが、地域の基幹病院がハイリスク妊娠・分娩などに対応し、隣接する広島圏域の周産期母子医療センターとも連携ができています。 ・今後も現在の産科医療体制を維持する必要がある。
呉圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所での分娩が少なく、病院での分娩が多い。分娩件数は減少傾向にある。分娩施設と検診施設との連携を推進している。 ・地域周産期母子医療センターが2施設あり、ハイリスク妊娠・分娩などに対応している。 ・今後も現在の産科医療体制を維持する必要がある。
広島中央圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年10月に、地域周産期母子医療センターが設置され、圏域内において、ハイリスク妊娠・分娩などに対応できるようになった。 ・圏域内の出生数と分娩件数を比較すると、分娩件数が少なく、潜在的な分娩の需要が見込まれるため、今後、地域周産期母子医療センターに分娩が集中する可能性がある。
尾三圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域周産期母子医療センター1施設が、地域のハイリスク分娩などを担っている。 ・三原市内の公的病院が分娩を中止したため、ほかの分娩施設の負担が大きくなっている。今後、圏域内の分娩状況を注視し、状況に応じて対応を検討する必要がある。
福山・府中圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩を取り扱う産科医師の減少が最も大きく、医師の負担が増大している。 ・地域周産期母子医療センターが1施設あり、地域のハイリスク分娩などを担っているが、県東部に総合周産期母子医療センターがないため、岡山県内の総合周産期母子医療センターに、母体などを搬送する場合がある。
備北圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩取扱施設が1カ所しかなく、医師一人あたりの分娩件数が最も多い圏域である。 ・今後、医師の増員や分娩取扱を休止している病院での分娩の再開を含めた対策が必要と考えられる。

平成 25 年 分娩の取り扱いの状況（病院・診療所）

二次保健医療圏	回答率 (%)			分娩取り扱い機関数 (回答有り)			産婦人科医師数 (常勤・レジデント)			分娩件数			分娩件数/医師		
	計	病院	診療所	計	病院	診療所	計	病院	診療所	計	病院	診療所	全体	病院	診療所
広島県	89.8	96.4	83.9	53	27	26	159	120	39	24,307	12,857	11,450	153	107	294
広島	73.1	100.0	84.6	24	13	11	87	70	17	11,776	6,198	5,578	135	89	328
広島西	100.0	100.0	100.0	3	1	2	8	6	2	1,522	572	950	190	95	475
呉	100.0	100.0	100.0	4	2	2	15	13	2	1,888	1,449	439	126	111	220
広島中央	100.0	100.0	100.0	4	1	3	8	3	5	1,579	413	1,166	197	138	233
尾三	80.0	100.0	66.7	8	4	4	15	9	6	2,274	1,025	1,249	152	114	208
福山・府中	90.0	83.3	100.0	9	5	4	22	15	7	4,552	2,484	2,068	207	166	295
備北	100.0	100.0	100.0	1	1	0	4	4	0	716	716	0	179	179	0

二次保健医療圏	平成 24 年 出生数	分娩カバー率 (分娩件数/出生数)
広島県	24,846	98
広島	12,747	92
広島西	1,109	137
呉	1,826	103
広島中央	2,032	78
尾三	1,841	124
福山・府中	4,595	99
備北	696	103

広島県産科医療体制図(平成25年)
分娩取り扱い機関の状況



広島県地域保健対策協議会 医療体制検討専門委員会

産科医療提供体制検討ワーキンググループ

委員長 工藤 美樹 広島大学大学院医歯薬保健学研究院
委員 赤木 武文 市立三次中央病院
入江寿美代 広島県助産師会
上田 克憲 県立広島病院
桑原 正雄 広島県医師会
児玉 順一 広島市立広島市民病院
児玉 尚志 東広島医療センター
坂上 隆士 広島県健康福祉局医療政策課
佐々木 克 JA 尾道総合病院
玉木 正治 呉市医師会
戸谷 和夫 三原市医師会
豊田 秀三 広島県医師会
中島浩一郎 庄原赤十字病院
中西 敏夫 広島県医師会
中西 慶喜 JA 広島総合病院
久松 和寛 広島県産婦人科医会
檜谷 義美 広島県医師会
水之江知哉 呉医療センター・中国がんセンター
三好 博史 広島大学大学院医歯薬保健学研究院
山本 暖 福山医療センター